

木村泰子先生 教育講演会 講演内容

演題 『不登校児や配慮の必要な子ども達に求められる支援とは』

もう拍手で迎えていただいたら、なんか「いい話をせなあかんなあ」と思うってしまうではありませんか。あの、今日は、私は大阪から皆さん方と一緒に学びに来ました。

私の目的は、皆さん方に「こうしたらこうなるよ」なんて、そんな話はもう何一つできるような人間ではないので、私自身が皆さん方といっぱい学びたいなあと思って、ここへ来ました。

【この後の大阪のイメージを聞いてのやりとりや大阪出身の教員との関わりは省略】

「みんなの学校ってどんな学校？」って、2006年に突然大阪市に開校しました。そこから7年目に一年間、朝から子ども達がいる営業時間内、ずっとカメラと一緒に学びました。毎日ずっとここで（顔の近くを差して）カメラも一緒に学んだんですね。でそれがドキュメントになって社会に出て行ったんです。

そのね、予告編が1分30秒ぐらいの予告編なんですけど、ちょっとだけどんな学校かな？みたいな感じで皆さん、今から予告編の動画を流すので、見ていただけたらありがたいです。

（動画視聴後）

ありがとうございます。こんな感じです。なんか今、どんなことを感じました？ ちょっと近くの人としゃべってください。どうぞ。（間をおいて）皆さん、始まる前、もっと大きな声で「うわーっ」て喋ってたよ。（ああいい感じだな）と思って見てたけど、なんか「自分の考えを伝えましょう」というとなぜか声がちょっと遠慮気味だった感じがしますが、あのどなたかどんな話をしたか？ ちょっと皆さんにシェアしてくれます？。どうぞ。

（会場からの声は、録音機器で聞き取りにくかったので一部省略）

あっ、ありがとうございます。どう？ みんないいこと言わなあかんと思ってません？。いいことなんて一切言わんでいいんですよ。自分が感じた自分の感じたことを自分の言葉で語る。これはいいとか悪いの評価は一切関係ねんから、こんな風感じたって、こういう自分の言葉を、すべての子どもと大人が語り合うのが学校。これを「安心」というと思うんですよ、はい。なんかもうちょっとだけ感じたこと言って。

「大変？」そんな言わなあかんやん。みんな大変という言葉を使わず大変を語って。

「やりがい。」あ、なるほど。それなんかプラス思考だよ。じゃあ、大変という言葉を使わず、マイナス思考で語って。

「しんどそう。」これって授業できるかっていう話だね。大阪弁に変えたら

「授業できるん？ 周りの勉強する学力あがるん？」 もっと言ったら

「親文句言ってくんのちゃうん？」 そんないっばい思えへん？ みんな。

はい、それ以外の負のスパイラルの大変を語ってよ。

「忙しい。」「とてもたくさんありそう喧嘩。」「いっぱいあるから授業なんかやってられへんやん。」

なんかこの場はさ、みんなこの場よりも安心できる場、オール四万十やんか。何を言っても絶対四万十のこのチームは、まして、教育長さんも居てはって、校長先生達もいてはるわけやから、絶対支えてもらえる場所やで。あっ嫌味に聞こえましたか？なんか笑ってる人がいるけど。いや、嫌みじゃなくて、これを一つの学校の職員室って考えたら誰が何言っても（あそうなんや。）（じゃあ私、明日その子とちょっと関わるわ）とか。（あとちょっと休んどきや）とか。なんかこういうのって、人と人との当たり前の言葉のキャッチボールやと思うんですけど…。

はい、今、たくさん皆さんに言っていただいて、「大変」っていう言葉は「大きく変わる」って書くでしょう。ものすごく大きく変わったんですよ大空。

今みんなに言ってくれたみたいに一年目、二年目。私らね、若者は初めての経験やけど、ベテランは大阪市で何校も学校経験してるから、大空の子ども達とそれまでの学校の子ども達と全然違うかったんです。何が違うかわかるでしょ？言うて！、子どもの何が違うの？どうぞ。

なんかみんなもうちょっと気楽にしゃべれへん？。私ここから飛び降りていきそうな勢いになるんですけど。あんね、授業もそうやけど、研修会なんか、話聞くだけの研修会なんか、クソの役にも立てへんよ。あっ、ちょっと言葉が麗しすぎましたけど（会場から笑い）

みんな今「主体的・対話的・深い学びをすべての子どもに」って、文科省が「こっち」って言ったのが「こっちやで」って、「先生たち頑張れ！ いい教えるプロになれ！」って言ったのが・・・

今や主語は子どもやで。子どもが学ぶ学校を作んねんで。じゃあ先生は教えるプロから学びのプロにスイッチ変えなあかんねんでって。

授業は子どもが主語。これまでシーンと先生が授業の話をして、静かな中で黒板に書いたのを子ども達が写して、先生に教えてもらった正しい知識を子どもがインプットして、それをペーパーにアウトプットする。そのアウトプットしたその正解が、どれだけ百点に近いのか？これが受験につながり、受験を勝ち抜いたらいい会社に就職して、あなたは幸せになれますよ。

こういう社会のニーズはもうほぼ40年前ぐらいに終わってしまってるんですよ。終わってしまっているのに、何故かずーっと学校の当たり前をおかしいと思いつつも、みんなを変えようとしてこなかった。文科省は、ようやく誰一人取り残さない。令和のなんたらかんならって言いましたよね。「だれひとり取り残すな。」っていうことは、その地域の子どもがすべて地域の四万十で生きている子ども達は、四万十の小中学校に誰一人来られへんなんてそんなアカンで。みんながそこで学ぶんやで。じゃあそんな学校をつくっていく、そのために自分はこれまでと今、今からこれからの未来、自分はどこをどう変えたらいいんやろって。これがまさに今なんですよ。だからみんな困ってるし。

それが大空はちょっと皆さんよりも早く困ったんです。2006年に突然開校した学校ですから、2006年、今から18年前、17年前ぐらいでしょ？。これまで私の言うことを子ども達はバチッと言うことを聞く。「いくよっ！」って言って後ろ見んと前向いてるだけで、みんな子ども達「バツ」とついてくる。

ところがね、大空の大空小学校に行って教員、ベテランの先生達いくら「ついといでっ」て歩いて（あらっ）て後ろ見たら半分居てない。教室から出たとたん、ジャングルジムの上に登ってるし、教室の隅っこで泣いてるし、廊下の端っこでひっくり返ってるし、えっ、これは一体なんやねん？って。

そんな大空のスタートでした。みんな辞めたいと思いました。辞めたい理由は、私の指示号令命令を、私の指導を子どもが聞いてくれへん。指示通り動けへん。なんかさっきいっばい出てたでしょ？あの暴れる子おった周りの子を勉強できひんやんとか、授業どうしたらいいねん。教室から飛び出す子おったら、その子捕まえに行ったらあとほったらかしとかなあかんやんか？そのうち親文句言ってくるやん。なんであんな暴れる子がなんているんですか！って。文句言ってくると思いませんか？

私らね本当に辞めたいって。50代の女性が7、8人。片や、20代後半、30代前半の若者が7、8人、真ん中なし。こんなスタートでした。ベテランの人間みんな、校長室、女性ばかりだったんですね。校長室にみんな集まってだんだん顔が、なんか最初お化粧をしたたのにお化粧もせえへん。あ、ここ笑うところです。（笑い）

もうなんか本当にそんなかまってられへんみたい。でそのうちにね、なんかだんだんみんな同じ電車に乗るんですよ。朝、同じ電車に乗って「はあっ」とか言いながら傷を舐め合いながら学校に行くんですよ。である時ね、私も一緒ですよ当然。

ある時、私がね、

「もうこんだけしんどいなあ、しんどいなあ。私らの言うことなんて子ども聞けへんやろ？どうやったらいいんやろわかれへんよな、もう辞めたいな、辞めたいな、辞めたら命までとられへんやんで。」こんな話も校長室でやるんですよ。である時、私が

「あんな、やめたいやめたいって、やめたかったらやめへんか？」って提案したんです。そしたらみんな顔色が変わって、

「やめれるもんならやめたい。」

「じゃあ、実際やめれる人手あげてみっ」

て言ったらね。8人の中で1人だけやったんです。セレブな女性は（笑い）もうわかりやすい話ですよ。あとの7人は息子の大学の授業料がある。私なんか家のローン残ってる。だからやめられへん。

「じゃあ、現実的に辞められへんやったら、やめたいって言うんやめよう。あんただけやめって言ったら私も辞めるのやめる」って言ったんですね。

そこから。じゃあ、子どもをどうにかしたい。子供を変えたい。そう思ってる間苦しかったんです。でね、一番落ち込んだ1人の退職前の女性の言葉です。彼女はね「ふっ」てつ

ぶやいたんですね、

「私らこれまでいい先生やなって、先生のクラスになったら当たりって親も子どもも喜んでくれた。それって自分の指導力や私はいけてるんや！って、ずっとそのことで頑張ってきた。でも今の大空の子どもに本当に私に力があつたら通用するはずや。でも今の大空の子には全く通用せえへん。じゃあ、私らが今まで培ってきた力って何やったんやろう？って言った後に、これって「指導力」じゃなくて、「洗脳力」やったんかな」って言ったんです。子どもを洗脳する力、その言葉を聞いたあたしも含めて、みんなとことん落ち込みました。私の言うこと聞いてたら幸せになるからねって。なんか子ども洗脳してんの？

主語はまさに教師の自分達だったなって。で、そこからもうこれ以上落ち込むとこないよね。落ちるとこまで落ちたから、まああとは一歩前に行ったらはい上がるしかないよねって。そこからみんなでいっぱい雑談しました。

職員室で私たち高齢者軍団がどうしたらええ？どうしたらええ？って、しゃべってんの若者たちが周りでなんとなくこうね、悲哀を込めた目で私たちを見てるわけですよ。だから、そのうちに私たちが若者に

「あんたらさ、何も困ってへんみたいな顔してるけど、今自分やってることそんでいいと思う？。困ってることないん？」

とか言ったら、職員室に来たら、若者たちも自分の上手くいってる場所は何も言わんねんけど、

「あの子どうも顔が暗かったな」。とか

「自分はこんなふうに行動したら、あの子がこんな顔してんよな。」とか

「それってどうかな？」とか

自分のできてない困っているようなことを言えへんかったら職員室に居りづらいみたいな、なんかそんな空気が変わってきて、みんなが職員室でいつも子どもの話をするようになったんですね。

でそんな時に、二年目です。二年目の大空の一年生。たった 28 人しかいなかったんです。この 28 人の中に重度の知的・自閉、何とか何とか何とかという発達障害の名前がいっぱいあって、全て多動・情緒で診断されてる子どもが 28 人の中に 10 人入ってきました。どうだ？どうだ？一年目はね、一年目も結構ねしんどかったんですよ。

もうあの、一年から五年までいっつも学校行ってへん子が六年生 2 人も突然大空に変わってきた。一人の子はずっと施設で暮らしてた。一人の子は学校に行けなくて母親が学校訴えた。大阪市を訴えて裁判継続中、(指定外就学認めるからどうぞ大空へ)って、そらね自分とこ来るより大空へどうぞって言うと思いません皆さん？。そんな突然六年生で初めて義務教育のスタートやっている 2 人が来て、でも 2 人だからね。職員 20 人弱ぐらいやったから、何とか何とかになって、この 2 人が本当に笑顔で卒業したんですね。

ということは、そういう噂って広がるんですよ。学校にあんだけ行かれへんかった子が、

にここ卒業したで。しんどい子あそこ行ったら行けるようなんちゃうか。って。こういう噂って、ネットですぐに広がるから一年生に引っ越しをしてきた。10人。

どうですか、皆さん？ 自分のクラスにね 28 人子どもがいて、その中に重度の多動やっというのが 10人居てる。こんな学級持つてる先生手あげてください。(笑い)

ほら、私らん時よりこういう言い方したらあかんけど、ましやで。 思いませんか？ これね、その時にね、もうそういう情報は事前に春休みに入るじゃないですか。その時に、一年生一学級ですから 28 人。特別支援学級在籍と考えても、10 人やから 2 学級設置になるんですね。特別支援学級 8 人が定員ですから。ということは、一年生に配置できる先生の数は 3 人。3 人で 28 人の中の 10 人。どこへ行くかわかれへん子 10 人いますよ。追いかけようと思ったら言葉を持ってない子もいました。「ああっ」って全部表現します。そんな分かりますか？

「お腹が痛い」言っても「頭痛い、トイレに行きたい」とこの子が言ってるか分からへんけど、「ああっ」しか言えへんから私ら分からへん。そんな子もその中に 3 人いました。なんか気づいたらすぐ友だち叩きまくってる、叩くのが僕の趣味ですみたいな子もその中にいたし、その子がちょっとどっかに行ったら、物がこわれるみたいな、そんな子もその中にいました。でも、3 人でやっていかなアカン。 で、

「ねっねっ、一年生の学級担任やってくれる人？」って聞きました。誰も手あげません。

「嫌な人」って聞いたら全員手挙げました。じゃあどうするって？

そんな時代が必ず来ますよ皆さん。もう今なんかしんどい子ぎょうさんあふれてきて、そんななんあと二・三年経ったら、普通の子ってどの子のことって、そんな時代に必ずなるんだから、先取りするのが一番やと思うんですが、今やから言えるけど、その時ね、私らね、苦しんだし困った。どうしよう？。どうしようもできひんじゃないですか。

「誰か担任してよ」って言ったらさ、一人のベテランが

「じゃあそう校長先生一人でこの学級担任できる？」って聞かれたんですね。で、

「私無理」って言いました。みんな無理なんですよ。

じゃあ時代は大空はちょっと先取りしてるだけやから、10 年先必ずこんな時代がくるでって、そう言いながらも今 17 年経ってますけど。ということはどうする？って。

学級担任制度を捨てました。誰も学級担任できひんから、じゃあ学級担任というこのシステムは、これまでの社会のニーズにはフィットしてたけど、今、これからの社会に学級担任、頑張れ頑張れ！って、もうそんな無理やなって。じゃあ学級担任誰もせえへんからやめようってしたんです。学級担任捨てたら何もなくなる。じゃあどうする？って、ここから新しいものがいっぱい生まれてきました。

皆さん、このね、みんなの学校って。(PP を示して、あつ、ちょっと舞台のとこだけ電気を少し落としてもらった方が皆さん見やすいかも分かりません。ありがとうございます。)

最初にやったのはね。「みんなの学校」って大空の代名詞ちゃうんですよ。四万十市の全ての小中学校はみんなの学校です。税金で地域住民の税金で運営されてる小中学校ですよ

ね。じゃあみんなの学校の最上位の目的は、「全ての子どもの学力ではなくて、学習権・学ぶ権利を私たちのみんなでなんとか保証しよう」って。

このことを、まず最初に全員で合意しました。四万十市の皆さんどうですか？。みなさんが学校で働いている自分の学校、自分の学校をつくる最上位の目的、今もう子どもの話できへんぐらい学校忙しいとみんな言い張るけど、一番目から百個仕事があったとして、二番目から百番目までの仕事全部できひんかって、一番てっぺんにある最上位の目的、憲法ですからねこれ、大空が考えたことではありません。

この誰一人取り残せへん文科省が去年言った言葉と一緒にです。【すべての子どもの学習権を保障する学校をつくる。】これがパブリックの一番てっぺんのやらかなあかんことやでって。このことをどうでしょう、四万十の皆さん合意しませんか？「反対」っていう人います？これより大事なことがある？。これより大事なことってありますか？

受験、受験の学力つける。あ、そんなん学校で安心して学んでたら、勝手に見える学力ついていきますよ。子ども勉強しよるから。みんな学校に行きますよ。まず、これをオール四万十で四万十市の学校教育の最上位の目的は、四万十の子ども誰一人取り残せん。オール四万十のみんなでそんな学校を作る。まずはこの学校を作る目的、目的を大空もみんな合意しました。この目的を達成するために、あとはすべて手段です。どんな手段でもいいんですよ。なんか先生は先生の手段を使ったらいいし、みんな自分のやり方でやったらいいんですよ。全て手段やから。

でもこの目的に繋がれへん手段は捨てなあかん。やってるけど主語は自分で、自分の思い通り子ども達向けたい。でも子どもこっち向けへん。おっきい声で怒鳴ったり、机をバンと叩いたり、そうやって子どもをこっちに向けようとしているみたいな行動があったら大空では、「アウト！」ってみんなで言います。そんなこの目的に繋がれへんから。

もうね、「アウト！」っていい言葉ですよ皆さん、あの大空のみんなでやっぱり私らね、分かっても先生と思ったら力でやっちゃうんですよ。言うこと聞けへん子おったらイラッとくるし、

「なんで誰に言うてんねん」とか、なんか若者達が、子どもに

「お前誰に言うてんねん」とか、こういう言葉が出る時に私の横を通った私が、

「誰に言うてんねん」って言ったら

「いや、先生にやんなあ」とか言ってツッコミ入れるんですけど、あの

「お前誰に言うてんねん」ってこれこの言葉って素敵な言葉でしょう皆さん？。

ああ。四万十は上品ですね。(笑い) あの大阪は

「誰にもの言うてんねん」て、なんかこういうことをよく言うんですけど、

「誰にって？ 先生にやんなあ」って。

「なんでやねん」って、もう笑いで終わったらいいんですよ。いいんですけど、必ずそういうところが出てしまうんですよ。でもみんなやねん。みんな出てしまう。出てしまったら

「出したらあかんでっ」て言われたら、しんどうて学校で働いていかれへん。自分を変え

ていく過程っていうのは、残念な過去に通用した自分がどうしても出るんですよ。出た時にみんなで自浄作用高めよう、今のアウトやでって、お互い私ら言うてなって、みんなで約束してるんですね。

子どもに「ガー」ってやってるその瞬間に、

「今のアウトやで」って、子どもに聞こえへんように、子どもがここに居たら、先生がここに居たら、子どものこの後ろから先生に（バヒューン）ってするんです。（笑い）

これだけでいいんですね、これだけで（はっ）と気づくんです。私もよくやってもらいます。子どもとね、なんか「ワーワーワー」言ったら若者がね、子どもの後ろからね嬉しそう顔して私の顔見てね（バヒューン）（笑い）そしたら子どもが

「どしたっ？」って言って、でも子どもに（バヒューン）なんてこんなに見せられんてしよいくらなんでも。だから、先生同士が教え合ってる姿はいいんですよ。でも鉄砲で打つなんて、これ子どもの前で見せれる行為ではありませんよ。でも一番速いんです。気づくから、変えることができるんですね。まあ、こういうことを、まずは、すべての教職員が子どもの前の大人が、この最上位の目的を合意する。こっからですね。

ここにも校長先生達いらっしゃると思いますけど、私も学校って校長にしか責任ないんですよ。皆さん方が子ども怒鳴りまくって、子ども学校来られへんようになった。誰々先生のせいで子どもが来れません。でもその誰、誰って、責任先生とれません。責任は校長にしかないんです。これが校長の仕事なんですね。

じゃあ校長で見えます？ 全ての子どもが。一日の学びを終えて納得して「さよなら」って家に帰ったら、次の日安心して「おはよう」ってくるでしょう皆さん、思いませんか。じゃあ保護者もクレームの電話一本もかかってきませんよ。保護者も子どもが、なんか文句言えへんかったら。じゃあ、みんなが安心するじゃないですか。教員は少々時間がかかっても、学校に長いことおっても楽しいから居る。働き方改革なんて言葉生まれませんよ。

「時短」が働き方改革ちゃうでしょうみんな。困ってることいっぱい持って解決せえへんのに、家に帰ってまた次の日来るってすごくしんどいじゃないですか。要は子どもです。

子どもが

「おはよう」って来て

「さよなら」って帰って、納得して帰るから次の日も

「おはよう」って来る。

子どもが居てる間が私たちの勝負です。 子ども帰ったら私らの仕事は無いんですよ。でもこんな学校皆さん作れますか？ どうですか？

こんな学校で校長がどれだけリーダーシップかなんかわからんけど、教員がどれだけ指導力を高めても、私達一人の力でこんな学校をつくるのが、もうすでに今、今のこの時代に無理なんです。無理やねんけど、なんか頑張れ！頑張れ！って言われてしまう。

大空は無理ってわかったからじゃあ変えよう。学校あるから来るのんちゃうねん。みんなが自分が作るねん。子どもが自分の学校自分が作る。保護者を全員保護者という名前は家だ

けでいいやろ。学校の門一步入ったら、今日から皆さん「サポーター」です。入学式に九年間言い続けました。お手紙もサポーターって出すんです、これね絶対いいですよ皆さん。こんなんすぐ、これこそトップダウンで、皆さん家は親が子どもを守らなあかん、だから保護者やねん。でも学校の門一步入ったら、例えばこの学校に百人子どもがいたら、この百人の子どもの今日からみんなはサポーターやでって、入学式に「ちょうだい」とか「いらん」とかいうこんなことも聞かず勝手にあげるんです。サポーターと言う名前を。そしたらサポーターは困ってる子どもを絶対応援しますよ。支えますよ。サポーターの力は私らの力を超えます。子どもは先生に言われへんでも友達の母ちゃんや父ちゃんにあったら、

「これ困ってる」って、なんかこの斜めの関係がサポーターですから。

サポーターが自分の子どもが学ぶ学校自分が作るんです。地域の方は四万十の地域住民の人たちは今、四万十の小中学校で学んでいる子どもすべて地域の力です。今、道歩いてたら、地域の方が

「おはよう」って言ってくれても

「クソじじい」っていう子がいるかもわかりません。

でも、この子は10年後にこの四万十の地域を作る大人になっていくんですよ。今

「クソじじい」って言っても、10年後は

「大丈夫か？、なんかあったらおんぶしたるからな。すぐ飛んできたるで」って。こんな大人になってるわけですよ。

教職員は自分の働く学校を自分が作ります。あなんか私、あんまり上手に物を言わんのですけど、本でしか言えない自分になってしまってるんですけど、言い訳ですこれね。でも校長の言うことを聞く教職員がいる学校は3日後に崩壊するって、これが大空でみんなで大事にした言葉です。

こう言うとなんかすごい聞こえが悪いでしょう皆さん。でもこれ言い換えたら先生の言うことを聞く子ども作ってたら、10年後使い物になれへんで。親の言うことを聞く子ども作ってたら親泣かなあかんで。今日、教育長さん居たはる前でこういうことをよう言うなって自分で思うんですけど、教育委員会の言うことを聞く校長居てたら、四万十市潰れるでって、文科省の言うことを聞く教育委員会あったら、これ、文科省潰れる。国の言うことを聞く文科省。国潰れるでって。これって私たちすごくみんなで納得した言葉なんです。困り切った時にこんな話をみんなでしました。

じゃあ校長の言うこと聞けへん。じゃあどう考えたらいい？先生の言うことを子どもに聞かしたらあかんのか？そういうことではなくて、すべての主体は自分なんです。校長が間違ったこと言ったら

「校長、今の間違いやで。こうちゃうかあ。」

「あっそうか、やり直すわ」って。いいじゃないですか。

もし校長が、すごくいいこと言ったら、

「ああ、なるほど。校長、いいこと言ったな。」

校長が言うたからやるんじゃないくて、校長の言うたことを自分のなかに落とし込んで自分が行動するんですよ。「先生の言うことを聞くな。」じゃなくて、先生が言うからやるんじゃないくて、先生が言った。あっ、これは自分の為にすごい大事やなって子どもが思うから自分が行動する。

親と子どもの関係も一緒だと思うんですね。要は、「自分が作る自分の学校」これね学びにという言葉に変えても、「自分が作る自分の学び。」 全ての人当事者になります。

学校で言えば、子ども、サポーター、地域住民、教職員。この全ての人が四万十の地域の学校を作る当事者になるんですね。当事者になったら人のせいにしなくなります。自分の意思で自分が自分の学校をつくっていくんですから。

子どもも先生達が授業をしてる。でも先生の教え方が上手やからこの先生いい先生やね。あたりやねんって。この一年間、楽しいわあって、でも当たりの次は必ず外れですよ皆さん。この当たり外れってというのは、先生の評価違うんですよ。木村が担任になって木村当たりって。30人子ども居てて、この子は木村当たりと思うけど、この子の隣に居てる子は、(木村しんどいね、木村いややわ) って。こんなふう思うのが、今の多様な社会で生まれて、多様な価値観の中で生きている子ども達。戦後の社会と違うんですよ。

一人の先生が当たり外れ。こんな学校作るのやめようかって、誰も学級担任できひんっていうところから、当たりはずれの学校やめようかってつながっていきました。要は自分やねんって、自分が作る自分の学校。これがみんなの学校やでって、この辺まで皆さんどうですかかなんか思いはありますか？大丈夫ですか？

あの。あ、この固まった空気はどうなんでしょう？次に行って大丈夫ですか？はい。今ね、聞いてたらね。(うん、なるほど、なるほど。) って色々なんかでも、そのうちに自分の頭の中もやもやしてくるんですよ。モヤモヤし始めて初めてそこからですよ、自分を変えるスタートですね。一人で変えられへんから、それがこの四万十の皆さん仲間同士で、(どう思う？どう思う？) ってそこから対話が始まって、やっとそこから疑問点が生まれてくるので、今日私は皆さんと学びたいと思う中身を、ただただ自分の言葉を言語化しただけのたわいもないパワーポイントです。

これを今日私は置いて帰ります。だから皆さん方が活用していただけるのであれば、コーヒのあてに、雑談のネタにこれをしていただいて、作るのは皆さん方が、四万十の地域の学校をつくるわけですから。これは私達が大阪のとてもアウェイからの実はスタートで、こんな地域に新しい学校できて誰も行けへんからなって、20年間反対運動を続けていた地域に生まれたのがみんなの学校なんです。実は。

なんで新しい学校を大きな学校の地域の人が、

「隣の地域の学校に行くの嫌だ」って反対してたと思いますか？、皆さん。どなたか思いつくこと言葉にしてください、どうぞ。(反応なし) なんで反対してたと思います。新しくできる学校へか行きたいと思う人もいると思うんだけど、20年間署名を集めて、(あっちの学校には行きません) と教育委員会を糾弾していました。それが大空のスタートです。だか

らみんなの学校が必要やったんですね。

地域の人が変わってくれへんかったら、学校で大事なことを学んでも地域に帰って子ども達が、地域の力で育ててもらわれへんかったら、親に殺されたら次の日学校に来せんから。私がどんだけ

「すべての子どもの学習権を保障するで」って言うても、

「さよなら」って帰った子が、親に殺されたら次の日

「おはよう」って来えへんじゃないですか。

私たち教員の力って「子どもの命を守る」という視点では無力ですよ、皆さん。子どもの命、教員の自分が守りますっていう人手あげてくれますか？（反応なし）

ありがとうございます。今ものすごく考えていただいて、もう本当夏休みに考えなあかんのか、ってごめんなさい。みんなね。でも考えていただいてるっていうのがすごく伝わってきます。

じゃあ。次の質問。「一人の子供の命を教員の自分は守ることなんて出来ませんっていう人手あげてください。」（挙手0）あつ、じゃあみんな守れんの？今何で手上げません？じゃあ守れる守れるか守られへんか二択ですよ真ん中無しですよ。なんで悩んでました？なんで悩んでた？

（中略、質問の中身を具体的に触れ直す）

今の質問はな、例えば学級でも学校の中の一人の子供を想像してくれたらええんやけど、その一人の子供の命。命を教員の自分が守りきることが出来ますかっていう質問。守れるか守られへんか真ん中無しで手あげてっていう質問です。はい、守れるっていう人。（挙手無し）守れませんっていう人。（挙手多数）

もう四万十市最高ありがとうございます。皆さん、本当にいいですよ。本当にお世辞ではありません。本心です。そうなんですよ。守られへんっていうところにね、先生達ってね、よう手拳げんねん。思いませんか？（守られへんなんて言うたら、先生としてどうなのか）とか、（守りきんのが先生やろう）とか、そういう呪いをかけられてんねんけど、そんな思ってるから子ども死んでいくし、子ども学校来られへんのですよ。絶対一人の教員で、どれだけ力があっても一人の子供の命も守られへん。これが今の日本社会を生きている子どもなんですよ。

だからそこを、やっぱり絶対守られへん、じゃ。そこで問いが生まれるでしょ？教員が守られへんかったら

「さよなら」って帰った子どもの命、親に殺されんねやったら、この子の命守るのにどんな力をつけ、どんな力が必要？、誰が守ったらいい？。

「さよなら」って学校から帰った子どもの命は？（会場から「自分」の声）自分。自分が守る。素晴らしいですね。でも自分子どもやから。親に2日前も屋上から小学校一年生の子を母親が落として自分も死にました。こんなことって今毎日報道で見るから、もう日本の当たり前になってると思うんですよ、親が子供を殺す。自分で守ろうと思うけど守りきれへ

ん。じゃあ、自分で守ることができない子どもの命は誰が守ったらいですか？（会場から「地域」の声）ありがとうございます。

地域の力ですもんね。学校の力は皆無なんです。ゼロ。地域の力で地域の親に殺されそうな親がよう育てへん、親が育てへん子どもの命は地域の力で守るしか、私達すべての子どもの学習を保障する学校作られへんのですよ。そこに気付いた時に、学校をとにかくオープンにして、地域の人・サポーター達もどんどん学校に来て、困ってる子どもの横にそっと居たら、自分のやらかなあかんこと見えてくるよって。

学校が「地域に来てください。お願いします。」みたいなことは一言も言いませんでした。学校がね「来てください。お願いします」って言ったらね。ありがとうございます。お茶の一杯も出せへんかったら地域の人、怒って帰ったりする。こんなよけしんどい。来ん方がましやな。思いませんか？

本当に、そこちゃうねんって、ギブアンドテークはすぐにゴールが来ます。しんどくなる。校長代わって、今の校長はどうぞ来てください。ありがとうございますって、どんどん来て助けたってる地域の人、校長が代わって、

「次の子どもは、いやあ地域の人入ってもうたら困んねん。いろんな子居るから」って言ったら地域の人、学校に来ますか？っていうことですよ。ギブアンドテークってそうなんですよ。

「こんだけわしらしたってんのに若い親はお礼も言いいよれへんな」って文句が出る。その文句を聞くのは子どもです。こんな大人の文句聞かす必要ないと思うんですよね。じゃあギブアンドテークの関係性は全部捨てよ。ギブアンドテークの向こう側にある言葉ってなんですかね皆さん？（会場からウインウインの声）

どうもありがとうございます。その通りなんです。ありがとうございます。ウインウインですよね。学校にとっても良い、地域にとっても良い、これが自分が作る自分の学校です。校長のために行ったってんでって、そんな人来ていいよって。子どものためって思ってる人は、子どものために今やってる事が10年後、20年後、自分の体が動けへんようになった時に、その子どもらが自分の為に来てくれる。これがウインウイン。

子どもの本質ってね、子どもってやってもらったら必ずやって返すでしょ。（あっ、こんな大人いいなあ）と思ったら、（そんな大人になりたい）って思うじゃないですか。してもらってありがたいと思ったら、自分ができるようになったら人にする。これが子どもの本質です。

でも反対にもう一つ子どもの向こう側にある本質は、やられたらやり返すんですよね。地域の人や周りの大人にやられたら義務教育の間は黙ってる。でも大人になったらそれを無差別にやり返して行く。これも子どもの本質なんです。だから地域の力でウインウイン、ウインウイン、これまでこんな学校できたら誰が行くねんって言ってた地域の人達です。なんで反対してたかって、その拡大地域の地域名の中に被差別部落がある。そこだけです。若い先生たち被差別部落ってわかります？。わかれへん？。ありがとう。首振ってくれてよか

ったです。

昔さ、学生時代に江戸時代「士・農・工・商・エタ・ヒニン」って勉強せへんかった？このエタ・ヒニンっていう立場に置かれた人は、いわれなき差別を受けた人、このいわれなき差別を受けた人が、21世紀の今の時代も水面下で、人は残念ながらどこかで自分の中に差別をした気持ちを持って今も生きてる。

大空は2006年の開校。この前の20年間、(被差別部落がある地域に、なんでうちのブランドの地域の子どもが行かなあかんねん)って。これだけの理由で署名を集めて教育委員会を糾弾してたんですね。

でも日本は障害者もそうです。差別解消法、障害者差別したらあかんで。部落の人を差別したらあかんで。そんな法律まで作ったんです。法律を作ったから表向いて言われへん。だから水面下で署名を集めて理由は明らかにしないで、20年間反対をしていた。

今の話、聞いてどう思います？若者たち。(ひどいという声) ひどいなって思うやろ。そやねん、ひどい。ひどいねんけど、なんでそういうことが続くんやろって。私は実はその大きな学校。もめもめにもめてる時に、大きな学校の校長になったのが一年目だったんですね。次の年に大空が開校したんです。

この大きな学校に行っ、そのことを水面下のことを内緒で教えてもらった一人の若い母ちゃんが、

「先生かわいそうやな。こんな学校に来て」って言われたんですね。

「何で？」って言ったら、

「大変やん、前の校長先生達、死んだ人もおるで」って言われたんですね。

「私死ぬ？」って。

「いや、大変やと思うよ。まして先生女やし」って、

そう言われたんですね。女やして認めてもらって喜んでるんですよ私。(笑い) あ、(ああ、そうか)って。それがその学校に行った時の最初で、初めて被差別部落があるから、みんなが水面下で署名を集めたんやっていうことに気づいて、なんちゅう子どもの前で周りの大人達やっ、すごい腹立ったんですね。でも腹立った一瞬、反対向けによくね母がね、

「あんた上向いてお空に向かって唾吐いてみ、自分のお顔にかかるやろ」

小さい時、よう悪い子やったから言われとったんです母に。そんな母の言葉をその時に思い出したんですけど、大阪市の人権教育をまがりなりにもやって小学校の教員やった私、その小学校の子ども達が、こうやって大人になって署名を集めて反対してる。じゃあこんな大人達を作ったのは、あんたのせいやんかって返ってきました。

その時に、なんか自分を変えれた気がするんですけど。たとえば差別はしてはいけませんって、みんな当然のことながら皆さんも教えてきたやろうし、ご自分もそう思っておられると思うんですね。でも、差別って、例えばあそこ部落やから部落の近くに行きたくない！そう思うのは内心の自由ですよ皆さん。自分の心の中で何を思うと、それが自分の自由。

でも差別はみんな持ってるし私も持ってる。けど、「差別と排除」ってこの言葉は隣り合

わせにあると思うねんけど、差別は自分のなかの内心で人には見えへん。見えへんし誰にも迷惑かけん、自分の中で思ってることやから。

でも「排除は行動」なんですよ。あっちの地域に行くのいや、そんな自由に思ってたらい。だから私たちは署名を集めます。署名をするっていうのは行動でしょ？ 行動は人を傷つけるしそんな大人の行動を子ども達は真似していく。自分は差別者やっていうことをわかってたら、自分の行動を振り返るなって、なんかそんな風にそこに唾吐いた後、自分の顔にかかってきて、私はここに来てとても大きなことを学べたなってそう思いました。

でね。こんな話してたらね、まずはすべての人が学校を作る当事者として、一つだけ気をつけたらみんなの学校なんて一瞬でできるんですよ。

「文句を意見に変える」んです。文句って皆さんいっぱい持ってません？もうあの

「なんや、あの親があんなやから、もうこの子がこうやって暴れるから、私がしんどいやろ」って、

これ文句なんですよ。でも文句はね社会を変える原動力なんですよ、人の文句は。でも文句を文句で言ったら、

「その子放り出せや」ってなるし

「この親もうちょっと自分の子どもしつけや」って。

「だから私は担任としてしんどいねん。」って。

それは文句やろう？この文句をな意見に変えんねん。

例えば、

「この子が教室に居るから私しんどいねん。だからこの子が教室にどうしたら安心して居れる？。私一人で無理やねん。この子安心して教室に居れるためにどうしたらいい？」って職員室で自分の意見をみんなに聞いてもらって、みんなのアイデアを集めるんですよ。意見は未来に繋がるけど、文句は誰も幸せにしませんよね。

入学式に

「今日から皆さんサポーターね」って。

「保護者はゴミ箱に捨て」、途中から

「シュレッダーにかけて」と言うこと変わったんですね。なんでかわかる？ゴミ箱に捨てたら拾いに行くんちゃうかって、シュレッダーにかけて

「拾えるものなら拾ってみろ」って言ったら、

「無理」って言ってましたから。

だから保護者はサポーターやでって、自分の子どもを育てたかったら、自分の子どもの周りの子どもを育てておいでって、周りが育ったら環境が豊かになったら、自分の子どもは確実に育ってるでって。

だからサポーター、自分の子どもは「見ない、触らない、喋らない。」そこからいろんな大人が、自分の意志で取材的に学校にきて困ってる子のサポートに入ります。当番を決めた

り、なんかボランティア募りますとか、そんなことは一切していません。

でも自分の子どもが学んでいる学校を豊かにするために、自分のできることをするなんて当たり前、私もお礼の一つも言いません。私は九年間大空にいたけど、九年経って終わってからのただの一度も大空には行ってません。過去の間、邪魔はできるけど、今と一緒に作る自分じゃないからですね。今は今の人達が私達と同様に悪戦苦闘しながら学校作っています。

これが、入学式でいつも言っていたサポーター。

「自分の子育てたかったら、他の子としような」って。

「文句を意見に変えよう」って、この二つなんですね。

地域の学校ってね皆さん、教職員と地域の力を融合するんですよ。融合。連携なんかすぐゴールきます。融合って溶け合って溶け込んでしまってるから誰が誰か分かれへん。

合言葉ができました。「できる人ができる時に無理なく、楽しく」当番制は一切ありません。学校に行く余裕がなかったら来ません。余裕ができたら来ます。すべてはその人の意思です。子どもと地域の人が顔を知って名前を呼びあえる関係、顔と名前が一致する関係を学校で作るから、地域で誰々さん助けてって、子ども言えるんですよ。学校でしか地域の人と子どもとつなぐことなんか学校でしかできないじゃないですか。

教員は自分の授業をオープンに開く、これ以外は一切どんな力も要らんと私は言い切りました。下手クソな授業とかいい授業とか、そんなんちゃう。自分の授業をとにかくオープンに開く。その中にどんどんサポーターや地域の人に来て、なんかね、こんなして寝てる、

「俺算数なんかわかるわけないし」とか言って、

こんな奴の横にね、地域の人がピュッと来てくれるんですよ。

「大丈夫か？何困ってんねん？」

「俺算数わからんし。」

「なんかわしにやることあるか？」って言ったら、

「教えられる？」とかいうんですね、その子が地域の人に。

「中学しか出てへんけど、これ三年生やから教えられるで教えたろうか？」って言ったら、

「教えて」って、

だらっとしてた子が、なんかその人と

「鉛筆貸したろ」とか言って、なんかちゃんと座ってるんですね。で、その人が一生懸命教えてくれてたら、途中でその人が、

「わし、昔のやり方と今とちゃうからな。」ちょっとわからんようになったんですよ。

「ちょっとわからんな」って言いしたら、その子ね、

「待っとき、聞いてきて教えたる」とか言ってね、前行って先生に

「だれだれさんわからん言ってるから、もう一回教えてや」って、先生は

「あんたやろわからんのは」とか言ってるんですけど、

その時にこの人に教えたろうと思ってね、これまで算数見向きもせえへんかった子が、一

生懸命話聞いて、地域の人に

「教えてるわ」って、

「いや、わしも今一緒に聞いてたし」って

まああのオチがあるんですけどね。こんななんかこういう子どもの姿って、教師が授業で教えたらなあかん、この時間この課題だけ絶対子どもにやらせなあかん思ってたらね。そんなゆとりって出てけへんのですよ。分かれへん子居てるやろって気付いてるけど、そこにまで一人で授業して30人の子、分かれへん子にどうすんねんって。

でも、先生、分からせろとか分かる授業しろとか、そんな全部捨てましたから、自分の授業とにか開きさえしたら、大空の教員は育成評価、全員合格です。全員授業を開きました。開いたら子どもが学び始めました。もう先生、授業開くだけで子どもが学びに向かうってこんなおいしい方法ありませんよ。あのみんなで一度試しませんか？

学校ってね、多様ないろんな人がいろんなことを、自分達こんなしたいからって子ども達がいる間に、大人達が楽しそうなことをやるんです。休み時間、そこ行って、子どもらも（大人楽しそうやなあ）って、なんかそういう学校ってプラットフォームなんですね皆さん。学校に多様な風が吹くから、多様な子どもの学び場が結果的に全ての子が学ぶ居場所ができる。

私達スーツケースの教員をやってて、自分のスーツケースに入れよう。大空というスーツケースは頑丈やで、安心して入っておいでやって、こんなスタートだったから苦しかったんですけど、スーツケース捨てました。

私は木村の風呂敷ってこんなん、なんか教頭の風呂敷こんなん、先生達の風呂敷全部繋ぐんですよね。管理作業員、給食調理員、事務室の先生の、あの職員の風呂敷、なんかサポーター達の風呂敷をどんどんつなぎ合わせていったら、永遠に風呂敷、学校のキャバが永遠に広がるんですね。で、誰一人同じ人間がいない風呂敷が広がってるから、どれだけ学校に行かれへん子が大空に変わってきても、どこかの空気を吸う。これが地域のすべての者が安全基地に変わっていきました。

すべてはすべての子どもの学習権を保障する学校をつくる。この学校の理念に、いつも自分の行動は繋がってる。繋がってへんかったらやり直しをしたらいいだけでした。実は皆さん、もう今ね、みんなと同じことができる。このことが評価される時代は終わりました。これが新学習指導要領ですよ。もう当然、皆さん実践されていると思います。

他人と違うことに価値がある時代になってきた。じゃあ、子ども達が今、目の前の学校で学んでいるこの子達の10年後、どんな日本社会が待ってますか？世界に出て行く子もいるでしょうが、どんな社会ですか？なんか思ったことをつぶやいてください。

（会場から超高齢化の声）

超高齢化、高齢化もうまさにですね、はい。（AIの声）AIで先生の仕事無くなるでとか言ってますね。あのAIに先生の仕事できるんやったらやってみろ。これが先生のプロたるゆえんやと思うんですけどね。はい、ほかは？ どうですか？

例えば、学校時代にルールを守りなさいって、規則を守りなさい。校則を守りなさい。ルールを守る。この力をつけた子が10年後、20年後の社会で学校時代につけたその力は通用するでしょうか？ 社会のルールはどんどんどんどん変わってますよね。

じゃあ今皆さん方が、学校で授業する目の前に子どもがいる。この子ども達にどんな力をつけなあかんねん。どんな力が必要やねんって。私らこれも毎日みんなでもう子ども帰ったら職員室で、休み時間職員室に降りてきたら、みんなでお茶飲んでお菓子食べながら雑談しました。

多様性社会・共生社会・予測困難な社会、だいたいまとめたら多様性社会なんて、云10年前は男性と男性が結婚するなんて、皆さん考えたことありましたか？でも今の時代、男性と男性が結婚する。別に驚けへんでしょ？自分が好む好まないに関わらず、そういうことを認めていきましょうという時代が変わってきてる。障害のある人が社会に出て、それぞれの企業が障害者雇用とか、いろんな外国の人達も来て、誰一人置き去りにしない社会の人を作っていく社会人になるために、学校で子ども達は力をつけているわけですね。

ウクライナの今の現実をある日突然日本も、ある日突然、(俺爆弾で死ぬ)って思ってる子ども今いっぱい居ると思うんですね。私現場に居てたら、きっと子どもに、

「なっ、平和教育とかさ、何のためにやった？なんでウクライナの子ども殺されてるのに世界中の大人達が、なんで止められへんの？この平和教育って何のためにやった？」

って言われるやろって思いますよね。

要は、正解がない時代を生きる。正解のない問いを問い続けるっていうことでしょうか。先生が正解持ってて1+1=2。これは目的の世界ではなくて算数の答えですね。学校はすべての子がなりたい自分になるために自分が力をつける場所でしょ。そう考えた時に正解のない問いを問い続けるということは、教科指導はあくまでも手段。

学力の上位目標は、障害があろうと障害なかりょうと、貧困であらうと友達叩く子であらうと、すべての子どもにとってこの不可欠な力。これを社会で生きて働く力をすべての子どもにつけるのが、まずは学力の上位目標やろう。これができて、もちろん教科も見える学力として力がつけばいいことないじゃないですか。これ、大空ではね、「見えない学力」って。みんなでなんか捨てていったら生まれてきた。

「人を大切にする力」「自分の考えを持つ力」「自分を表現する力」「チャレンジする力」
この四つの力を義務教育の、例えば9年間で子どもが、それぞれの子どもがこの四つの力を自分が付けたら、その力を持って、多様性・共生・予測困難な正解のない社会を、なりたい自分になるために、隣の人を大事にしながら生きていけんのんちゃうかな、みたいなことを考えました。毎時間、教科学習の中でこの四つの力がどれだけついたか、これを子どもは自己評価してたし、私達は授業の授業評価を四つの力でやりました。

皆さん、ちょっと今やりませんか？今のご自分にこの四つの力の中のどの力が一番ついていますか？一つ決めてください。(少し時間を取って)聞きますね。なんか悩んでいただい

てる人もたくさんいてくださってありがたいんですけど。 こんなん一年考えても答え出て
けえへんから。

瞬時！瞬時！。

「人を大切にする力」が一番ついてるっていう人。(挙手あり) ありがとうございます。
皆さんぐるぐる見回して頂いたら良いと思いますよ。 校長先生、どこに手あげてるかなど
かね、教育長さんどこに手挙げてはるかとかね。

はい。「自分の考えを持つ力」一番ついてると思う人。(挙手あり) ありがとうございます。
す。

「表現する力」一番ついてると思う人。(挙手あり) ありがとうございます。

「チャレンジする力」一番ついてると思う人。(挙手あり) はい、ありがとうございます。

じゃあ次。今の自分に明日の自分まだ変わりますから、今の自分に一番足りない力はどれ
ですか？一つ決めてください。

「人を大切にする力」が一番足りないと思う人。(挙手あり) ありがとうございます。

「自分の考えを持つ力」一番足らんと思う人。(挙手あり) ありがとうございます。

「表現する力」一番足らんと思う人。(挙手多数) いや、めちゃくちゃいてはりますよね。
はい。ありがとうございます。

「チャレンジする力」一番足らんと思う人。(挙手あり) ありがとうございます。

これを毎日やってるんです。 これ6年間、こんなんやってたら学期に一回、今学期はどれ
にこだわるって、大人も子どももこうやってみんな見える化してるんですけどね。

今皆さんやっていただいて感じはったと思いますけど、メタ認知なんですよ。一方の自
分が自分を評価する。学校って常に教員に子どもが評価されている他者評価、子どもが納得
しようと納得すまいと教員が評価をする。それが通知表という形で親に手渡され親が子
どもにね。…(てんてんてん) じゃないですか？

教師はそういう評価を握ってる。でも自己評価この見えない学力は、教師が評価できない
学力ですよ。だって見えへんから。友達に

「お前死ぬ」言うてる子が「死ぬっ」て言ってるこの言葉の裏に、そいつのことをどん
だけ思ってるかなって私ら分からへん。「死ぬっ」ていう言葉しか聞いてへんから分から
へんのですよ。そうやって子どもを、なんか大人を不審に信用してくれへんようなことが、い
っぱい負の連鎖があったと思うんですけど、この見えない学力を優先したら実は見える学力
は、見える学力は結果なんです。結果。さっき先生が

「どうやって授業したらいいのやろう」って言ってはったか。

でも学ぶの子どもやから、あの学力調査の結果って使いかた間違ってるから、比較するも
んじゃないから大反対の自分なんです。でもなんか皆さんきつとどっかで思っはると
思うから、そんな反対してる人間が今から言うのは自分ですごい自己矛盾を感じながら言
うんですけど。

大空の子ども達も9年目は当時1位の秋田県を8ポイント上回った平均正答率です。そ

れが見える学力の結果です。あんなうるさい教室で勉強できひんやんかって、それね、実はあんなうるさい教室で、私がこの子に教えることができないやろって自分のことを言ってるんですよ。うるさかろうが学ぶのは子どもや。そのせいにするなよなって、私ら毅然にその子の前で、そこだけみんな毅然となんか立てた気がするんですが、この子が暴れるからあなたが勉強できひん。この子のせいかって。学ぶんだれ？「俺やし」とか。こういうことを最初の頃は繰り返してましたけど。人のせいにしない学校を作っていくと、見える学力も結果です。

もちろん、大人がこの四つの力を付けることを忘れてたら、大人を見ながら大人になっても四つの力付いてへんかったら俺らもつける意味ないなって、子どもなんか見抜いていきますよね。

もう一つは校則・決まり、マニュアル全部捨てました。すべての子どもが守れる校則・決まり、マニュアルを見つけることができなかつたからです。でもたった一つだけみんなで約束しました。

「自分がされて嫌やったら人にせんとこな、言わんとこな」でもこれね、

「自分されたら嫌なことない？」

「俺、親にどつかれてた、だから俺こいつどつuitたけど、別に俺嫌なことないし」って、そんな子いっぱいいます。

「俺、これやってもらったらうれしい。だからこいつにやったってやん」って

「でも、あんたがやってもうたら嬉しい、人も一緒やん」って。

「そう思うのは、やり直しいやっ」って。こういうこともしょっちゅうありました。

「でも俺はどうもないよ。」

「でもこの子がもし俺やったらって、想像したらどう？」

っていうこの問いかけだけで、

「あっ、こいつが俺やったら絶対嫌やろな。ごめんな」って勝手に子ども謝ってますよね。

ジャッジは全て捨てました。子どもをつなぐだけでいいんです。このたった一つの約束は、破るためにあるんですよ。ルールは破ったら罰がある。でも約束、たった一つの約束、小学校でいっぱい破って、破ってしまったらそれに怒られたり相手に謝ったり、じゃなくて殴ってしまった、残念なことをした自分のためにやり直しをするんです。やり直せば失敗は成功体験に変わります。これがたった一つの約束です。

皆さんもあの今からちょっと、私の話はもう時間も来てるので、これぐらいにして、ちょっと子どもの姿を、すみません動画を今から流します。10分弱の動画です。ご覧ください。

(動画視聴)

ありがとうございます。えっと、今の出てた子どもなんですけど、この子は大空の9年間で、一番暴力を振るった子どもです。まああの幼稚園から、この子がおったらみんなじめられるからって、母親はずっと周りからママ友から言われて、母は一度も学校に来るような母ではありませんでした。こんな母ちゃんがサポーター制度をとっているのに、学校によ

う来んかったんですね。うちの子はいつも人に迷惑かけてるから、行ったら謝りまくらなあかんと思ってるからですね。

でも、周りのサポーターは学校に来て困ってる子の横になんかいつもいるので、私達が見えていないところをサポーター達見てるんですね。

周りのサポーターが彼のお母さんに、

「あんた学校においで、M がどれだけ優しい子かあんた知らんやろ」って。

一年生の子が一人で運動場の隅で泣いてた。そしたらサポーター行こうと思ったら、M が走っていたらしいんですね。チャイムが鳴っても、運動場の隅で一年生の子と、M と 2 人で、一年生の子の話をずっと聞いたってた。で、だいぶ授業ももう進んでねんけど、しばらくしてから 2 人で手繋いで一年の教室に送って行って、自分が教室に帰ってたよって。

「そんなあったこと、自分の息子のこと知らんやろ？学校に行けへんからやろ。来てみ」って。そんなふうに周りのママ友から声をかけられた事がなかった母親が、母もそうやって周りに育ててもらってるんですね。

でっ、この子ね、これ四年生です。これは六年生の時の M の姿なんですけど、あれから一度も暴力を振るいませんでした。ところがね、六年生のある日。突然、あの子は何もしていない通りすがりの子どもに、暴力振るってしまっただけなんです。その日から彼は、イライラしたことがあって友達殴った。あれだけ殴りたくないって我慢してたのに殴ってしまった。だから、

「俺、今から職員室でやり直しをする」

って言ってね。職員室と校長室の狭い所、みんなが来たら見える所です。そこに机と椅子を持ってきて一ヶ月居座りました。朝来たらそこで勉強するんですね。休み時間はトイレに行くだけ。友達が来てもものも言わず、なんか自分で勉強しよるんですね。そんな一ヶ月が過ぎたんですね。

でっ私らね、邪魔なんです、M がそこに居たら。休み時間帰ってきてね、お菓子食べるのもいけるじゃないですか。(笑い) 甘いもん食べてみんなで「ギャー」って言って、次の時間行くのに、なんかこう勉強してるから、私が食べる前に

「M 食べる？」って言ったら

「要らん」って言う。あたしら食べるけど、

「どうぞ」って言われて食べるわけですよ。

「なんかもうお願いだからあんた帰って」って、本当じゃまやっただけです。

「悪いけど教室帰ってくれへんかな」って。

じゃあ、そこで M が、

「決めるのは自分やん」って言いました。

「こういうとこで使うとか決めるのは自分や」って。

でっ、私ら

「そうですか」

って、そんな日が過ぎたんですね。

で、Mね、私の所へ来て、

「校長先生、俺さ学校来るのやめようかな」って言ったんです。

「学校にさえけへんかったら友達を殴らないという俺の目標は達成できる。」

そう言った時に私も思わずね

「ごめんな、M」って、

「私が悪かったと思うわ。いや、殴ったら殴ったで、またやり直したらどうや」
って言うよ

「そうもいかん」

とか言いながら、私も自分には無理やなと思ったから、六年生の教室に走って行って

「今、M学校来んのやめようかなって言った」って言ったら、子どもらが

「そらあかんわ」って言って、ずらっとみんな職員室に来て

「M、ええやんお前さ、絶対もう一回どつくって」って言ってましたみんなが。(笑い)。
みんながよう知っとるから。

「絶対どつくって、どついたらまたやり直しすればえーやん。とにかく帰って来い」
って言って、机と椅子を持って行ってくれたんです。その日以来、彼は中学の3年間も高校
の3年間も、ただの一度も暴力・暴言振るっていません。母からの手紙が来ました。

見事にあの子は小学校卒業する時に

「俺より暴力振ったやつおらんよな？」って言って聞くから

「いやあんたどう思う？」って言ったら

「おらんと思う。」

「ピンポン」ってこんな会話したんですけど、でもその後で彼ね

「でも俺さ、誰よりもやり直しの回数多いやん」って、中学校に行きました。

彼が中学三年生になった時に、母から長い手紙が来ました。その手紙に、先生、私もよう
やく大空を卒業できました。(お母さんね、若い頃に産んで、言うこと聞けへんかったら殴
ったんですよ) 殴られてる子は人を殴りますよ。殴られた経験ない子は殴りません。そ
れに、暴力あかんと思ってたら

「暴力は犯罪やで」って。

「じゃあ俺を産んでくれた俺の母親は犯罪を犯してんのか？俺なんかずっと殴られてた
し」って、

私らの一言がそんなふうに使わせてしまうよなって。私らだからいっぱいやり直したんで
すね。

そしたらね、母がそこに、私も卒業できたからねって。Mが突然

「俺、いい高校行かなあかんから勉強を始める」ってそう言い出した。

「なんでなん？」って言ったら、その時にMがね

「俺みたいな奴、今の学校にいっぱいおるやろ。俺なみんなイライラしたことがあっても

友達どつかんで。でも俺はイラっときたら気づいたらどついてしまってる。みんなみたいに俺はそれが我慢できひん。俺なんて絶対学校に来ん方がいいし、みんなができることも自分はできひん。俺はアカン人間やんって。やっぱりずっとそう思ってた」

って言うんですね。

でも、職員室で一ヶ月あの子がやり直しをしてた時に、大空のサポーターや地域の人はしょっちゅう子どもの困りごとを職員室に持ってきて、みんなで話し合ってるから、もう来ない日はないんですね。

「様々な人が職員室に来たら、みんなが実は俺に声をかけてくれた。まだ居てんのか？

早よ帰れ！ってみんな言うねんけど、どの人も同じことを俺に言ってくれた」って。

「先生、Mが言うねん」って、母が書いてるんですね。

それは何かっていうとね、

「M、アンタはいい子やで、あんたはいい子なんやで、あんたのやってる行動を変えるだけでいいんや。あんたのやってる人を殴ることを、殴れへんようになるあんたの行動、変えるだけでいいねんね。あんたはいい子やでって。みんなが言ってくれた。だから俺、アカンなって思ってたけど、その時にみんなが言ってくれた言葉が、やっぱり今の自分を支えてくれた。だから俺、学校の先生なんか大嫌いだったけど、俺みたいな奴いっぱいおるから、俺先生になろうかなと思うね」

って母に言ったそうなんですね。

で母はね、

「あんたみたいにキレル子今いっぱいおるで、子どもキレテ、あんた先生になってあんたもキレテたら学校大変やで」って言ったそうなんです。

でもMは

「俺はもう大丈夫」って、なんかそんなことが書いてありました。

でね。つい最近です。ああ、彼（会場の先生）が出た吹田市、吹田市の校長先生達の研修と一緒に学ばせてもらったんですね。で、その時にその一人のお友達が、関西の結構あの難関大学ですが、そこでなんか教授をしているということで、実は授業「みんなの学校」のDVDを見せて、みんなと学校の授業をしたんですってその先生が。

そしたら、たくさんいる学生の中から一人の子が、

「僕の出身校です」って手を挙げたそうなんです。

「僕は大学の卒業生です」って。

それがMやったんですって、びっくりするでしょう？「卒業生です」って。で、なんとその彼今大学3年生になってます。その授業は教職課程の授業だそうです。

だから、本当に（あっこの子先生なんのかな）って子どもの可能性なんて皆さん分かりませんよね。

このマスクしてる彼（動画の中の）どついたでしょ。あの時皆さんこんなん、だって顔にシャアもかかると世界中、ベトナムもこの映画見ってますから。ベトナム語に翻訳してイン

クルーシブ教育でベトナム今、日本よりもすごい進んでるんですけど。

この彼ね、卒業する時に私のところに来て、

「校長先生、俺、あの映画大反対やからな」って言いに来たから

「分かる私も反対や」って言ったら、

「俺より校長先生はまだマシや」って言うんですね。

「なんで？」って言ったら

「普段どうりや」って言うんですよ。

「俺は6年間で友達を拳骨で殴ったのはあれ一回きりやで」って言うんですよ。(会場から笑い) たった一回殴ったことだけが、世界中に見られんやでって (さらに笑い)。こんな理不尽なことがあるか」って、

「分かる。口で言いふらしたるからなそれ。」

「この子一回やねん。M いっぱい殴ってて、殴れへん」って言って、

俺の両親も

「M、あいつどうにかならんかなあ、あいつはいい奴やなあ」って言ってたのに、

「なんとMは、ええ奴や。それに比べてお前は何やって、ものすごい怒られた。親戚中から電話かかってきた。」

なんかNHKの8時の、なんか賞を取ったからって行って、全国版で放映されたんですね。

「こんな理不尽なことあるか!？」って言ったから

「わかる」って言ってたんですね。

この子のこれは六年生の彼の姿(動画の中の)です。なんかシャキッとしてるように見えるでしょ。でもこの子は就学時、健康診断受けられなかった子どもです。大空に来る時にはADHD やって。なんか何とか何とかという専門家が大空にきて、

「この子はみんなの中で育てたら、この子は潰れるから別室でパーティションある所で、この子が落ち着く部屋を作ってください。なんかイラッとしたら、ボクシングのね、なんかサンドバッグみたいなのを学校で用意して、それをやってください」って。

彼を連れて母親と一緒に来た子どもなんですね。

「はい、わかりました」って言って、

実際私達は、言うことは聞きません。そんなスタートやったんですけど、この彼ね、中学校にやっぱり行けませんでした。中学校の校則を守れ、大空の当たり前と中学の当たり前が違うのが当たり前やから、(大空みたいに中学校も変えて) なんて言うてたら、ずうっと子ども落ち着いて育つんかって。違う環境でどうそこをクリアするかって、それが子どもの学びやろって、

中学は中学、小学校は小学校、幼稚園は幼稚園。なんかその連携を間違ったらアカンでって、中学に行かれへんようになったら小学校に帰ってきて、こんなんしてもう一回中学に行きや、これが小中連携ちゃうかって、なんかそんな風に中学校とも話をしてて、でもこの子

ね中学三年間、何度も（死んでしまおう）と思って、うつ状態になって、そんな三年間を経験した子どもです。

これね、皆さんここに（動画の中の）。この女の子の後ろに見えます？

「世界の頂点に立つ」って書いてるんです。世界の頂点に立つ NT。

これが今のマスク（動画の中ではマスクをしてた）の T なんです。集団生活が苦手な小学校の時も授業中に読みたい本があったら、読みたい本を一心に読んでるんですね。

で、先生が

「T 休み時間に読み、今授業しい。」

どんだけ言うても本読んでる。先生がね

「T、言うこと聞け！校長先生怒ってよ！」とか言ってくるから

「いや T にしたら、今授業よりも本の方があの子にとっては大事なんやろ、T が俺、この本より授業やりたい、というような授業を私らがやったらええんちゃうん？」

って言ったら

「そんなできますか？」って言うから

「いや、私はできひんよ」って言ったら

「無理に決まってるじゃないですか」とか、

こんな話を毎日してました。でも、あの子は本を読み続けました。図書館の本はあの大空の図書室にある本は、ほとんどみんなの中に居づらくなったら、図書室に行って本を読んでたと思うんですねきっと。そんな四年生の時のこの姿で、「世界の頂点に立つ」。

でもこの子は「四つの力」と「たった一つの約束」は、やっぱりとても大事にしてたんですね。彼も今 23 歳になっています。あ、21 歳、21 歳になっています。今の彼の姿です。（PP で示す）J リーガーになりました。あのなんかアンダーの代表にも選ばれて。

この子は中学三年間学校に行けなくて、先生は（病院に行く）とか（うつちゃうか）とか、いろんなことで関わられたけど、（ほっといてほしい）と思う時も子どもってあるんですけど言っていました。

でも、そのみんなから色々としんどい状況になった時に、

「お母さんだけは、まるごと俺の味方してくれた。そのお母さんを幸せにするために俺はサッカーしてる」って。

中学校でこんだけ行けなくて苦しんだって、でもね中学校の先生のせいにしたり、なんか中学が悪いからとかそんな発想どこにもないんです。集団生活が苦手な自分が居てるっていうことを、ずっとひたすらなんか書き続けています。

でも、このままやったらあかん、自分の得意なことでもう一回「そうだ頂点を目指すんだ！」とか言って K 高校に入って、K 高校ってサッカーの結構強豪校じゃないですか。理不尽なこともなんか「ハイ！」とか言わなあかんようなところクリアしたんですよ。

皆さん学びの目的って、なんかその子がその子らしく育つ。それを私達は、支援すればいいんですよね。

(数字を提示)

この人数は何の人数がわかりますか？皆さん。声を上げて。気づいた人。514人。去年一年間、小・中・高等学校という居場所がありながら、514人の子どもが自死しました。実際の数はもっと辛い数があると思います。事故死で処理されてる数もあります。これが今です。

(再び別の数字を提示)

不登校と言われるこれは小学校・中学校。これだけの子どもが、今学校に行っていません。私、全国で学校に行っていない子どもからたくさん学ばされます。

自殺・不登校・いじめ、過去最多。文科がインクルーシブって言ってから、特別支援学級・特別支援学校の在籍が過去最多。これは普通と言われる学級や普通と言われる地域の学校が豊にならないからじゃないですかね。

児童虐待、教員の休職。先生になって辞めてしまう。特に若い人が多いです。若い先生が先生になったのに、子どもの前から姿が消える。子どもは一生トラウマで残ります。

私が小学校三年の時にそれを経験しています。ある日突然大好きな先生が学校に来なくなった。それから一度もその先生学校に来ない。もういまだにその時のことは、(私らが悪かったのかな) って、子どもってやっぱり引きずりますよね。

(木村先生に届いたメッセージを提示)

これ今から皆さんと共有したいのは、今高校二年生になっているこの子は緘黙症(かんもくしょう)と診断されていて人の前では喋りません。しゃべれへんけど、いっぱい考えています。考えていることが私達には分かりません。小学校、中学校ほとんど行けませんでした。今高校二年生になっているこの子が、何度か講演会には来たりしていました。話を聞いた後、(泰子さんの話を聞いた僕の感想です) って送ってきたメッセージです。

『学校という牢獄に通うということ。

何も悪いことをしていないのに刑務所行きだと言われること。

みんなと同じようにして学校にいなさいと言われること。

ほとんどの人にとって、学校が刑務所でないからこそ気軽に言えること。

当事者からすると、ありのままの自分を真っ向から否定される場所。

人に迷惑をかけるな、周りと同じようにしなさい。

ありのままの自分で居ることの罪を償えと言われていたような、暗くて重いプレッシャーを背負いながら学校に通い続けることがどれだけ難しいか、そのストレスは何も学校に行かなくなったからといって消えるものでもなく。一人一人の意識から変わっていかないとしんどい子はいなくなると思う。』

去年の11月です。なんかいろんな学校に行っていない、行かない選択をしている多くの子ども達の言葉を代弁してるかなってなんか思うんですけど。皆さん、彼のこの言葉の中から、ご自分ほどの言葉が一番突き刺さりますか？ どなたか声をあげてください、どうぞ。

(会場から、「そのストレスは何も学校に行かなくなったからといって消えるものではない。」という声。)

ありがとうございます。実は私も同じところが突き刺さりました。なんか今学校に行かんでええって、フリースクールいっぱい作って、特例校も作って子ども真ん中社会って、国もいろんなことをやろうとしている。じゃ学校に行かんでいいよ、他に家でオンライン勉強しても出席にしてあげるよって、それが手厚い施策のように一見思えるかわからへんけど。

でも子どもを主語に考えたら、やっぱりみんなが当たり前に行っている学校に自分だけ行けるけど、違うところで勉強したい。これは大いにありだと思います。でも行けないから違うところに行きやうって言うのは、やっぱあまりにもずっと大人になるまで引きずるんやなって、周りでそういうこといっぱいやってくれている。それも決して悪いことではありません。

でもね、地域のそれぞれの地域にある四万十の全ての小中学校が、自分達で何か良いとか悪いとかじゃなく、先生達みんなものすごい頑張ってるから。でも、その結果が過去最多、過去最多、過去最多、もし四万十今そうちゃうでって言うても、必ず過去最多、過去最多。そんな社会の流れがもう確実にそんな風に動いてるわけですよ。そうなったら、地域の自分達のこの地域の学校を、今よりさらに豊かに変えへんか、地域の学校をみんなで変えていこうってそこの動きがなく、周りだけどれだけいろんな学校をつくっても、何か10年後、20年後の社会は豊かになれへんのちゃうかなって、この子の言葉から思いました。

私ら何度もやり直ししました。指導は一瞬で暴力に変わるっていうことを何度も……。50人以上の不登校・発達障害ってレッテル張られた子が、九年間で大空に変わってきました。2年目の話先にしましたが、2年目どころか、もうあの次から次にもう満員御礼やでって、いうても引っ越ししてきたら大空に通ってきます。子どもが選択することですよ。指導より私らが指導力をあげるんやったら、子どもが増えれば増えるほど、それに比例する私らの指導力をつけるなんて不可能、無理。だから環境を作ればいいんです。

学校の組織文化をぜひ皆さん、自分達で問い直してみてくださいませんか？ 子ども達が学校に来れない学校の組織文化、どんな文化やろうって大空も最初はいっぱいありました。

ヒエラルキー（ピラミッド型、序列化等）「前例踏襲」「同調圧力」。皆さんの学校にありますか？大空のスタートはいっぱいありました。だから捨てました。

「バヒュン」をこれもその一つです。じゃあね、ヒエラルキーを捨てたら何が生まれてきたかっていうとね、全ての人が事者になりました。人の命令で動かないからです。

「前例踏襲」を捨てたら、すべて去年は去年、今年も新たに。去年できたから今年もできるって社会変わって子ども変わってるでって。すべて創造、つくろうって。

「同調圧力」を捨てたら、人は全て違っていることが当たり前。校長・教頭・教員・臨時教員・職員、それぞれの立場が違う。やる仕事の中身が違う。でもこの違いを尊重しあったら全ての教職員の関係性は対等になるんですね。職員室の大人達が、みんな違いを尊重しあって対等な関係を作ったら、子ども同士障害やろうとなかろうと、勉強できようと思えまいと、貧困であろうが、みんなやっぱり大人の行動を真似できますよね。

私たちの仕事は「子どもを指導することではなくて、子どもと子どもをつなぐことです。」
ジャッジを通訳に変えました。殴った子殴られた子「暴力振るうな謝れ。」 謝りますよ。

「どうや？」

「いいよっ」て。

でも、子どもが説得されて納得せへんかったら、大人の居てない所でどんでん
「お前次チクったらもっとやるぞっ」て、
やられて親にも言われへん、先生にも言われへん、一人ぼっちになったら、子どもはそこから逃れたいですよ。じゃあ、子どもと子どもつなぐ、すべての子どもと子どもつないだら
不登校・自殺・いじめ、こんな言葉生まれません。

毎日あるトラブルは学びに、生きた学びにみんなで変えていけばいいわけですよ。そのため
に教員の資質能力の転換が必要でした。皆さん今、すべての子どもの学習権を保障する学校を、
四万十の全ての学校、誰一人学校に来らへんなんてありえない多様な学校作ってるよ私達って。
そんな学校をつくるために教員に、この力だけあったらできんねん。不可欠な力 たった一つです。
皆さん今、どんな力を想像されてますか？

これね。子どもを主語に教員の資質能力の転換が必要です。教員が主語、「良い教師になって、
良い教えるにプロなれ！」って言われてきた時の学校づくりではなくて、主語子ども
やでって変わったら、教員の資質能力当然変わらなあかんですね。

「授業力が付いたらいい、

「子ども理解ができたらいいい」 そんな力あったらあったに越したことはない。

でもね、そんな力がなくても、人の力を活用する力をすべての人がつけたら、自分が無理と
判断したら、新任であろうと、授業してて（この子無理だな）と思ったら、校長先生出番です。
「びいー」って出ていけばいいわけですよ。無理って逃げたら給料返さなあかんじゃない
ですか。子ども育てへんから。

でも無理って判断することが命守れるか無理。授業上手にできるか無理、この横向いてる
子こっち向かせれるか無理、って判断するから、この子が一番安心するのは学校の誰やねん？
「あ彼や」と思ったら出番やでちょっと来てやって。彼を子どもの前に向き合わせたら、
子どもは安心して（おっ、もう一回頑張るわ）って、じゃあ彼の力を活用したのは自分
ですからね、皆さん。

じゃあ新任であろうと高齢者であろうと、職員室のみんなの力を活用したら、子どもは確
実に前を向きます。私らの力が足らんかったら、そこに風呂敷を広げていくんですね。

職員室は「助けて」って子どもも大人もサポーターも安全基地なんですよ。安全基地って
弱み吐ける職員室なれへんかったらできないですよ。どうですかね？

私ら3日間水で我慢したけど、今日4日目、親家におれへん、夏休み食べるもんがない。
コンビニに走って行って、おにぎり一個取って食べた。万引きしたんですよ。食べてしまっ
てから、職員室に

「どうしたらいい？」「おにぎり取った助けて」って。

ある年、一人の子が飛び込んできました。私ら「教員」っていうリュック背負ってたらね、誰よりも物とったらあかんって分かってるから「助けて」って来る。

でも、

「この子おにぎり食べてくれたから死なんで良かったやん」って。

そんな子に

「お金出したるから謝りに行こう」って、これまでの私は言っていました。

でも、「教員」っていうリュックを下ろしたら

「ごめんな知らなかったわ」って。でも

「今度から同じことあったら、誰々さんの家に行きや」って、そんなふうにひとりの人としたら言えるわけですよ。これだけでした。

殴ってる子の横も暴れてる子の横に行っても、その子に

「大丈夫か？」ってみんな声かけるようになったんです。

「暴れるな」って言ったら一日暴れます。

「大丈夫か？」って言ったら暴れるのやめるんですね。

「何困ってるん？ 私にできることあるか」って、

教職員が管理職がサポーターが地域住民が、地域の子どもの周りの様々な大人が、この言葉を学校で掛けたら地域が変わっていきました。

ぜひ皆さん、「多様なすべての子どもの学習権を保障する。」これが「みんなの学校」ですから。

今あるものの何を捨てて、何を作りますか？ こっからが皆さん考えていくことです。これは大空の九年間で捨てたものです。

あの、これを（PPで示す）コーヒーのあてにどうぞ皆さん、（これってどういうこと？）って、皆さんのそこからいろんな疑問がわいてきたら、いくらでも私達自分がやったやり直しは答えられるので、その時に質問がたくさん出てくると思うので、是非あのメールで頂いたら、またやり直しの言葉を返したいと思います。

最後にね、わっ5時や。みんな今時計見たら5時でした皆さん。私は電車間に合うのか、今ちょっと初めて不安になりましたが、はいああ、こんな私でごめんなさい。もうあの皆さんの時間を拘束してますね。

えっとね、これ（PPを見せて）私ね教育実習の時に、すっごい態度の悪い実習生。小学校の教育実習行った時に、指導教官が書いてくれたメッセージです。私中学の体育の教師になることしか考えてない人間やったから、小学校の先生になるなんて思いもしなかった人間です。中学の体育で合格したのに、小学校に回されたやんって、そんな想定外のスタートやったんですけど、そんな小学校のことなんて勉強する気さらさらない。学ぶ気0の実習生に、何も教えてくれなかった指導教官がノートの後ろにこのメッセージだけを書いてくれました。

まさに今日本の学校現場は、どっちに流れて行かなあかんねんって、反対向きに流れるの

しんどいやろって、まさに教育改革ど真ん中、こんな今の時代やと思うんですね。

「あなたはどちらを選びますか？」

って書いてあるんですよ。

【 楽な方に行く？何かしんどい方に行くん？ あんたはどっち選びますか？ 】

私は40年ぶれそうになったことがいっぱいあります。その都度、この言葉に戻りました。だって決めるのは自分やでって。そういうことですよね皆さん。

学びって人を変えることじゃなくて、自分を変えることやから。

できるとか、できひんとか、そんな周りの評価は、なんかぜんぜんウェルビーイング（よく在る、よく居る状態）みたいなんで、つながれへんから。周りにどう思われようと、自分が自分をほんの少し変える。なんかその行動を子どもはちゃんと見てるなって、そういうことをみんなの学校で教えてもらいました。

もう延々とお話して本当にごめんなさい。とっとと大阪に帰ります。ありがとうございました。